

平和をつくる日韓ユース共同声明

2019年は、大きく切り開かれた朝鮮半島、東アジアの平和への道を確認していく転換点の年だ。

1月10～13日、日本と韓国に住む私たちは沖縄に集った。青い海に囲まれたこの島で沖縄戦の記憶と基地のある現実を直視し、「平和とは何か」を問い、その答えを見つけるためだ。

平和祈念資料館では被害に遭われた方の写真に涙が流れた。沖縄戦では鉄の暴風と称される激しい地上戦が行われ、実に県民の4人に1人が亡くなったことを知った。チビチリガマでは83の方が強制集団死させられた現実を知り胸が痛かった。沖縄戦で被害に遭ったのは沖縄県民だけではなく。朝鮮半島から強制連行された沢山の人々が、沖縄で日本の軍隊に動員され、奴隷労働をさせられ、日本軍「慰安婦」として性奴隷にさせられた事実を知った。

沖縄戦が終わっても沖縄には平和は来なかった。沖縄には戦争の準備をするための巨大な米軍基地が作られ、今でも日本全土の0.6%しかない沖縄に、日本全土の70.6%の基地が存在しているという差別的な現実があることを目の当たりにした。米軍属による女性暴行事件の起こった現場を訪れ、亡くなった女性がどれだけ悔しかったかを思い、度重なる米兵・米軍属による事件が二度と起こらないよう追悼した。多くの人々が嘉手納基地・普天間基地の周辺で激しい爆音と墜落の危険性を抱えながら生活している。戦争がなくてもこの現実には本当に平和なのだろうか。

さらに、グラスボートから覗いた大浦湾の美しい珊瑚礁が、日米両政府により埋め立てられ、辺野古新基地建設工事が進められている。しかし、辺野古新基地建設に反対し、座り込み、カヌーに乗り、あらゆる手段を使って国家権力と闘い続けている人々により、未だに基地は完成していない。平和は、戦争の悲惨さを記憶し伝えようとする人々と、基地はいらないと絶え間なく闘い続ける人々によって創られているのだと学んだ。

そして、命と人権が脅かされ、平和でないのは私たち青年も同じだ。私たち日韓青年は資本主義が生活の隅々まで支配した社会の中で、学び、考え、生きる力を奪われている。過酷な受験勉強や就職活動で競争を強いられ、就職すれば非正規職が拡大する中で長時間労働・低賃金・労働災害に晒されている。高額な授業料により高額な奨学金を借り返済しなければならない状況に悩み苦しんでいる。パワハラやセクハラで心を病み、自死する者も出ている。

しかし、私たちの力は決して弱くない。私たちの願いは東アジアから戦争につながる一切の武器をなくし、朝鮮戦争を終結させ、東アジアの平和を確認することだ。私たちの想いと行動が社会に変化を作り出しており、これからも闘いつづけていくことで社会をより良い方向に変えることができると信じている。日韓の私たちが力を合わせて、戦争のない、貧困のない、差別のない、核・原発のない社会を作っていこう。私たちの力で、東アジアの平和を作ろう！

(行動方針)

- ・東アジアの軍縮に向け、日本政府による憲法9条改憲を阻止し、辺野古新基地建設を中止させよう。韓国星州ソソンリに作られたTHAADミサイル配備を撤回させよう。チェジュ島に新たにつくられようとしている空軍基地建設に反対しよう。
- ・朝鮮戦争終結に向けて、各国政府に働きかけよう。
- ・チェジュ島カンジョン村での平和大行進に参加しよう。
- ・日本での2019地方選にむけて、平和と民主主義を社会に貫くための青年要求を掲げよう。
- ・青年要求のために働く青年議員の当選を支援し、青年地方議員を各地で増やそう。
- ・2019年7月27日、28日に行われる2019ZENKoin東京に参加しよう。
- ・5月3日～6日に行われる釜山・慶州・星州をめぐる日韓参加団inKoreaに参加しよう。
- ・少数者に対する嫌悪と差別のない社会のための、包括的差別禁止法制定を実現させよう。
- ・全ての人に高等教育の無償化を実現しよう。

2019年1月13日

日韓ユース参加団 in 沖縄 参加者一同